

令和2年8月4日

滋賀県内経済情勢報告

(令和2年7月判断)

1. 総論

【総括判断】 「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるものの、足下では下げ止まりの動きがみられる」

項目	前回（令和2年4月判断）	今回（令和2年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるものの、足下では下げ止まりの動きがみられる	↑

(注) 令和2年7月判断は、前回4月判断以降、足下（7月末）の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、生産活動は一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、減少しており、雇用情勢は弱い動きとなっている。一方、個人消費は家電販売を中心に持ち直しの兆しがみられる。

【主な項目の判断】

項目	前回（令和2年4月判断）	今回（令和2年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが続いているものの、足下では持ち直しの兆しがみられる	↑
生産活動	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	→
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響等により、改善の動きに一服感がみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓
設備投資	元年度は前年度を上回る見込みとなっている	2年度は前年度を下回る見込みとなっている	↓
企業収益	元年度は減益見込みとなっている	2年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていくなかで、各種政策の効果もあって、極めて厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待される。ただし、感染症が県内経済に与える影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが続いているものの、足下では持ち直しの兆しがみられる」

百貨店・スーパー販売額は、衣料品が低調であるものの、食料品について外出自粛による巣ごもり需要がみられたことから、堅調に推移している。

コンビニエンスストア販売額は、外出自粛の影響から、オフィス、観光地等の売上が減少したことなどから、弱い動きとなっている。

ドラッグストア販売額は、新店効果や衛生用品の販売が伸びたことなどから、好調に推移している。

ホームセンター販売額は、DIY や家庭菜園に関する販売が伸びたことなどから、好調に推移している。

家電大型専門店販売額は、テレワーク需要でパソコン等の販売が伸びたことや、買い替えや巣ごもり需要で白物家電等も好調であったことなどから、堅調に推移している。

以上のことから、小売6業態計売上高は、足下で堅調に推移している。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を大きく下回っているものの、足下では下げ止まりの動きがみられる。

観光動向は、宿泊者数や観光客数は大きく減少しているものの、足下では下げ止まりの動きがみられる。

(主なヒアリング結果)

- | | |
|--|----------|
| ➢ 外出自粛による巣ごもり需要により、客単価が高く、食料品は前年を上回って推移している。 | (スーパー) |
| ➢ 4月から急激に悪化し、観光地や大学の近隣店舗では大幅に売上が減少している。 | (コンビニ) |
| ➢ テレワーク需要によりパソコンやプリンターが良く売れたほか、6月中旬以降は、エアコン、冷蔵庫、洗濯機などが売れている。 | (家電量販店) |
| ➢ 来店客数が減少したことや、メーカーからの入荷が遅れたことにより、5月の販売は大きく落ち込んだが、足下では改善しつつある。 | (自動車販売店) |
| ➢ 客足はなかなか戻らないが、県外への移動が緩和された6月下旬以降は、客数が増加している。 | (宿泊) |

■ 生産活動 「一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している」

鉱工業指数(生産)で見ると、はん用・業務用機械や電気・情報通信機械などが上昇した一方、生産用機械や輸送機械など多くの業種が減少している。経済活動再開を背景に、一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、多くの業種で感染症による悪影響がみられる旨の声が聴かれているなど、生産活動は減少している。

(主なヒアリング結果)

- | | |
|--|---------|
| ➢ 取引先である完成車工場の操業が低下していることから、4~5月の生産量は大きく減少している。6月に入って持ち直しているが、一時ラインを停止するなど厳しい状況が続いている。 | (輸送機械) |
| ➢ 新型コロナの影響はやや遅れて出てくるため、5~7月に大きく影響を受け、特に7月に最も影響を受けている。 | (生産用機械) |
| ➢ 4~5月は海外需要が回復したものの、国内需要が減少し、売上は前年を大きく下回った。一方、国内の影響は4~5月に留まったことから、6月以降の生産は例年通りとなる見込みである。 | (電気機械) |
| ➢ 4~6月は需要の回復時期に備えて作りだめをしており、売上はほぼ前年並みだった。しかし、7月以降は、新型コロナにより自動車市場が停滞している影響が遅れて出てくる見込みである。 | (電気機械) |
| ➢ 巣ごもり消費が続くなか、スーパーへの販売が好調だった。 | (食料品) |

■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は低下が続いているほか、新規求人数は前年を大きく下回る水準となっている。

(主なヒアリング結果)

- | |
|--|
| ➢ 需要の低迷により人手の過剰感がある部門は、非正規職員や協力会社社員を減らすことで対応している。(はん用機械) |
| ➢ 技術系の非正規職員は過剰感があることに加え、コスト面の負担が大きく、今後減らす計画をしている。(電気機械) |
| ➢ 臨時休業の際には、解雇ではなく、休業による雇用調整助成金を活用した。(小売) |
| ➢ 時短営業によって、夜間の人手不足は緩和されている。(スーパー) |

■ 設備投資 「2年度は前年度を下回る見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」2年4-6月期

2年度の設備投資は、全産業で9.3%減(対前年増減率、以下同じ)の見込みとなっており、産業別では、製造業で25.7%減、非製造業で2.9%増の見込みとなっている。

■ 企業収益 「2年度は減益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」2年4-6月期

2年度の経常利益は、全産業で▲41.1%(対前年増減率、以下同じ)の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で▲40.3%の減益見込み、非製造業で▲42.3%の減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、持家が減少していることなどから、全体で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額で見ると、県や市町等が増加していることなどから、全体で前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「下降」超となっている (全産業)「法人企業景気予測調査」2年4-6月期

企業の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455

財 務 省